

Hello

しながわ! コミュニティ・スクールフェスタ

Link for the future 学校・家庭・地域で育てよう! 品川の子どもたち



学校ゾーン学校地域コーディネーターやボランティア

区教育委員会では、昨年4月から、「品川コミュニティ・スクール」を全区立学校で実施しています。その取組を保護者や地域の方々に広く知っていただくため、平成31年1月19日(土)、豊葉の杜学園アリーナにて、「しながわ! コミュニティ・スクールフェスタ」を開催し、1,600人余りの参加者がありました。

本フェスタは、各校に配置している学校地域コーディネーターが中心となり、企画・準備を行ってきたものです。学校ゾーンでは、各校の取組の紹介に加え、学校支援ボランティアの募集を行いました。

企業等ゾーンでは、各企業が学校に提供している出前授業が紹介され、体験ゾーンでは来場者を対象とした、食育、環境教育、新聞記者体験、プログラミング等の出前授業が行われました。

パフォーマンスゾーンで行われた、笠原将弘シェフによる講演「食べるということ」では、ユネスコ無形文化遺産となっている和食や日本の伝統文化の素晴らしさが語られ、箸を器用に使うことが脳の活性化につながることや、旬の食材を食べることが健康保持に結びつくことなど、和食を通じた食育の重要性について述べられました。



食育について講演を行う、日本料理「賛否両論」オーナーシェフ笠原将弘氏



トークセッションの登壇者。左から、澤野由紀子氏(聖心女子大学教授)、権東勇介氏(FC東京普及部・国体U-16・U-12トレセンコーチ)、服部穂住氏(株マナーフォワード執行役員 人事本部長)、森井じゅん氏(公認会計士)

またゲスト4名によるトークセッション「これからの社会を生きる子どもたちに必要な力」では、様々な立場から意見交換がなされました。その中で共通していたのは、自分の夢や目標を明確にすること、自らの意思で判断すること、そして、その土壌となる自己肯定感を育むことの大切さでした。

さらに会場は、大井権現太鼓やしながわ学院エンタ部の演奏やダンスで盛り上がりました。

御参加いただきました、保護者の皆様、地域の皆様、企業・団体の皆様、誠にありがとうございました。

本フェスタを契機に、地域とともにある学校づくりをさらに推進していきます。

品川区の特別支援教育

品川区では、「自立や社会参加に向けた主体的な取組への支援」と「共生社会の形成の基礎」をキーワードに、教育総合支援センターが中心となり、外部機関と連携しながら特別支援教育の充実を図っています。

特別支援教育とは

障害の状態に応じて、本人の可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加に必要な力を培うため、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導および支援を行うことです。通常の学級に在籍している発達に偏りによる学習上の困難さのある児童・生徒への支援を含めて、全ての学校・学級において実施しています。

品川区立学校全校に設置

●特別支援教室

通常の学級に在籍する発達障害等のある児童・生徒が対象です。

支援を必要とする児童・生徒の所属校に区内11（小学校7校、中学校3校、義務教育学校1校）の拠点校から教員が訪問して指導をしています。

コミュニケーション、読み書き、運動などのスキルを身に付けられるよう、指導を行います。特別支援教室を利用し、適切な指導や支援を受けることで、学習に向かう気持ちや態度に良い変容が生まれ、通常の学級での学習への適応がより良好になることが期待されます。



小学校・中学校・義務教育学校

対象の児童・生徒は、週に1日程度、決まった時間に特別支援教室に移動し、訪問指導の先生から個別や小集団での指導を受けます。



知的障害特別支援学級

第一日野小学校 浅間台小学校 荏原第五中学校 伊藤学園 品川学園	浜川小学校 上神明小学校 日野学園（7年生以上） 八潮学園 豊葉の杜学園	中延小学校 荏原平塚学園
--	--	-----------------

病弱特別支援学級

清水台小学校
（昭和大学病院内）

言語障害特別支援学級

戸越小学校 台場小学校

自閉症・情緒障害特別支援学級

浜川中学校

難聴通級指導学級

台場小学校
豊葉の杜学園（7年生以上）

●特別支援学級

知的障害、自閉症・情緒障害、病弱の各種別に対応したそれぞれの特級支援学級では、少人数によるきめこまかな指導を実施します。また、難聴、言語に対応した通級指導学級（週一程度利用）では、児童・生徒の発達や障害の状態に応じ、専門性の高い指導を行っています。

すべての子どもたちの成長を温かく見守っていきましょ

**相手の気持ちを考える
ことが苦手な子がいます**

経験、体験したことがないこ
とや相手の気持ちや都合を考え
て行動することが苦手な子ども
がいます。

○本人ができないと決めつけな
いようにしましょう。

○本人が何をしたいのか聞いて
あげましょう。

○意見を押し付けないようにし
ましょう。

○話はゆっくり、イメージしや
すいように具体的に話をし
てあげましょう。



**がんばっているのに
うまくできない子がいます**

一生懸命やっているのに、な
ぜかうまくいかない。急いでい
ると思われたり、わざとやって
いると勘違いされたりする子ど
もがいます。

○できるだけ、穏やかに落ちて
いた口調で話しかけるように
しましょう。

○「しっかりしなさい」「がん
ばりなさい」などは何をした
らよいか分かりづらいので、
具体的に明確に伝えるように
しましょう。

○急な変化は見通しがもてなく
なり不安になります。

時間・場所・活動内容などの
変更は前もって教えてあげま
しょう。

○成功体験が多くなり、意欲が
高まるように、褒めましょう。
失敗しても、やる気の途中の
過程をたくさん褒めてあげま
しょう。

**立つ、座る、歩くなどの
動作が困難な子がいます**

生活をするうえで、手動ドア
の開閉、急な坂道や横断歩道の
出入り口等、勾配や段差の昇降
などに不自由さがあります。

○声を掛けてからお手伝いをお
願います。

○本人や介助者の荷物を持った
り、通りやすいように場所を
空けたりすることも大切です。

耳の不自由な子がいます

耳が不自由な子どもは、聞こ
え方や、これまでの生活によっ
て、それぞれのコミュニケーション
方法が違います。

○音声での会話、読話、筆談、
手話など、どのようにコミュニ
ケーションをとればよいか
たずねましょう。

目が不自由な子がいます

戸惑っている姿を見掛けたと
きは、まず、
「何かお手伝いしましょう
か？」
などと、声を掛けてあげましょ
う。

○横断歩道では渡るタイミング
が難しいので、信号が青に変
わった時に、「青になりました」
「もう渡れます。一緒に
行きましょうか」等と声を掛
けてから誘導しましょう。

